

保健学科の近況

睦眉会の皆様には、平素より本学への様々なご支援を賜り、心より御礼申しあげます。

今年度より、近藤和也先生の後任として保健学科長を拝命しました。保健学科の近況をご報告し、ご挨拶とさせていただきます。

国立大学が法人化され、大学の自主的な運営により教育・研究の水準を高めていくことが求められるようになっていますが、保健学科においては、昨年からはまった第3期中期目標として、「グローバルな医療人の育成、そして地域医療に貢献できる高度専門職医療人と国際的に活躍できる教育研究者の育成へつなげる」ことを目標に取り組んでいます。

保健学科開設以来、看護学専攻、放射線技術科学専攻および検査技術科学専攻における国家試験の合格率、就職率ともほぼ100%を維持していますが、保健学科の卒業生には、国家資格取得だけがゴールではなく、その先の自分の将来像をイメージしてより積極的にキャリアを重ねていくことを期待しています。平成18年に大学院教育がスタートし、これまでに博士前期課程206名、後期課程32名の修士を輩出することができました。このような学部一大学院の一貫した教育体制のなかで、将来の目標に向かって高い志をもち自己研鑽できるようカリキュラムの充実を図っています。具体的には、学生の創造性や問題解決力、リフレクション力などを強化してより主体的な学修姿勢を養うた

徳島大学医学部保健学科長
徳島大学大学院保健科学教育部長

雄西智恵美



めに、アクティブ・ラーニングや反転授業、ポートフォリオなどの活用を推進しています。また、現場のリアリティを学び、より実践的な学修ができるよう、大学病院はじめ関連施設の多大な協力を得て実践力強化をめざしています。さらに、質の高いチーム医療の推進に貢献できるマインドを育むために、蔵本キャンパスの特徴を生かした多職種連携教育を実施しており、チーム医療入門の演習に加えて、実習科目においても連携教育の実現に向けて取り組みを始めています。

グローバル化については、フロリダ・アトランティック大学（米国）への短期留学、メトロポリタニア応用科学大学（フィンランド）との交換留学を継続しており、平成28年にはセントポール大学（フィリピン）と協定を締結し、今年度は大学より講師を招聘してミニ英語プログラムの実施を予定しています。同じく平成28年に協定を結んだプリンス・オブ・ソングラー大学（タイ）との交流も進展しており、国際的視野を育む教育環境の整備を進めています。

同窓会の皆様には、これからも保健学科の将来を見守って頂き、引き続きご支援頂きますようお願いいたします。

歴史と発展

来る2019年は徳島大学創立70周年を迎えます。人の生涯に例えるためたく「古希」を祝う節目でも有ります。活力みなぎる青年期、壮年期を経験し社会から高い評価を得て、後進に範を垂れる立場に成る時期でもあります。

これまでの輝かしい実績と高い評価を基盤として、100年先も社会に輝く「徳島大学」で在る為には各位が知恵を出し有効且つ画期的な施策を推進しなければ、今以上の社会的評価を得る事は不可能だと思えます。

保健学科は東京オリンピックの翌年2021年に創立20周年を迎えます。四国の5国立大学で唯一の保健学科が徳島大学に存在します。看護師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師の教育・育成と大学院教育を推進し輝かしい実績を積み重ねておる処です。保健学科同窓会である「睦眉会」は卒業生、在学生、教職員で組織し、



徳島大学医学部附属診療放射線技師学校3期生
徳島大学睦眉会会長

河田 明男



会員数は6,795名を擁する大組織と成りました。同窓会は在学生と卒業生を結び親睦を目的とする組織です。学生の本分は学業の陶冶に尽きます。充実した学生生活を物心両面から支援する事も同窓会の仕事です。少子高齢化の本邦において国立大学運営は針の筭状態です。運営交付金は年々減少し、大学が独自の生き残り策を決定し実施する必要に迫られている事は周知の事実です。ここで外部資金の獲得という図式が描かれました。世界の大学ランキング上位の海外有名大学は群を抜いた外部資金を有効活用し学生への環境改善、教職員の研究環境改善に資金を注入し、大学の更なる実績向上に繋げております。

徳島大学が今後目指すのは「寄付文化」を醸成し潤沢な外部資金を教育環境のレベルアップに注入し、社会から良い評価を得る卒業生、教職員の育成に寄与する事です。睦眉会は学生、教職員の士気向上と大学の資質向上にも寄与していきたいと考えております。

同窓生通信

感謝！感謝！

徳島大学医学部附属看護学校28期生
徳島大学病院



久米 博子



昭和54年に看護学校を卒業し38年間看護師を続けられたのは、同級生はもちろんのこと恩師、先輩、後輩、そして友人や家族の支援があったおかげです。卒後、奈良県の県立病院に就職し脳外科と整形外科の病棟に配属され、救急車で運ばれた交通事故の患者さんや脳

腫瘍・脳卒中や脊髄損傷など何らかの原因で神経を損傷した患者さんがいる病棟でした。神経支配領域どおりに症状が現れることが興味深く、身体はきつかったのですが、とても充実した日々でした。

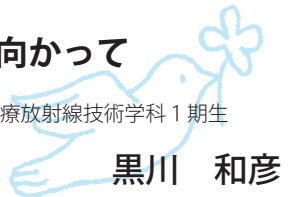
その後、徳島に戻り、歯科でも医科でも看護は変わらないと思い、徳島大学歯学部附属病院に入職しましたが、歯科の知識が殆ど無く教えてもらうことばかりでした。病棟、手術室、補綴科、矯正歯科などに勤務し、副看護師長を経て、平成11年に看護師長になり、平成15年4月に医学部附

属病院の東病棟6階（旧第2外科）に勤務移動となりました。病棟管理は、限られた資源の中で、情報の共有と、スムーズな意思伝達を鍵とし、患者さんの療養環境・スタッフの職場環境をいかに良くするかということだと思います。歯学部とはシステムが違ったため、医学部のシステムは殆ど分からない状態でしたが副看護師長やスタッフ、医師や同僚の看護師長に支えられ、看護管理者として育てていただきました。平成21年から副看護部長を拝命し、平成22年から、地域医療連携センター兼務となり、杉原看護師長（27期生）から地域連携の「いろは」を教わりました。平成27年9月に新規運用が始まる新外来診療棟において、地域連携業務、各種相談業務、入院診療から退院に至る患者支援等について点在する部門を一元化し、患者さんへのワンストップサービスを実現するために、地域医療連携センターを拡充し患者支援センターを設立することに努めました。現在は、平成28年から教育を担当し、竹内キャリアアドバイザーやキャリア形成支援センター看護部門のスタッフや教育委員会メンバー、看護部の方々に支えられ、看護職員のキャリア形成支援を行っています。

この38年間の看護師生活は、配属された部署の仲間とともに、いつも誰かに支えられてきました。本当に感謝、感謝です。これからも色々な出会いを大切にしていきたいと思っています。

今日とは違う明日に向かって

徳島大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科1期生
高松市民病院



黒川 和彦

私は平成3年に医療技術短期大学部診療放射線技術学科を卒業後、地元である高松市民病院に勤務し、約25年が経ちました。一通りのモダリティに携わり、現在は主に、CTと新人教育指導を担当しております。

昨年、全国自治体病院学会が富山県で開催され、同期の友人2名と再会しました。各施設での取り組みを題材に発表しており、其々ご活躍されていることが伺え、良い刺激を受けました。



日々の業務は、ややもすると安易な方向に流されがちです。しかし、よく考えると、一般撮影ひとつをとっても同じことは無いので、1つ1つが新しいものであり、

発見であり、それに柔軟に対応していく知識や技術を身につけて行かなければならないと考えています。

当院は、現在の高松市民病院と香川診療所を統合し、「高松市立みんなの病院」として、平成30年秋に移転する予定です。病床数は305床となります。私は新しく導入されるPET-CTの立ち上げを担うことになりました。機種を選定から法律関係、運用マニュアルの作成等、すべてが“ゼロ”からの出発です。不安もいっぱいありますが、施設見学や県下の技師の方々の意見を拝聴し、大勢の方に支えていただいております。新病院開設まで、一年を切りました。これからもっと多忙を極めると 생각합니다。放射線技術科、そして病院スタッフがチーム一丸となって頑張っていきます。



血が騒ぐ助産師のお仕事 “愛”ある学びの日々

徳島大学医学部附属助産婦学校20期生
徳島文理大学助産学専攻科



鈴記 洋子



2017年6月
ICMカナダ大会で

同窓生の皆様お元気でしょうか。私は、助産婦学校を卒業後すぐに旭川医科大学病院に就職をして3年間北海道で過ごしました。北海道では登山にスキーと遊びも仕事も謳歌しておりました。

その後、縁あって故郷の徳島大学病院に転勤し、分娩部、婦人科病棟、周産期母子医療センター、看護部と長きにわたり働いてきました。平成24年に現在の徳島文理大学助産学専攻科に再就職し、現在に至っています。助産教育に携わって早6年目となりました。臨床では、産婦さんの出産に立ち合わせていただき、多くの学びを得ました。教育職に着く前は、管理者として病院の中核で、社会情勢や動向を見ながら、病院や看護部はどうあるべきか考える日々でした。大変ではありましたが、やりがいのある仕事でした。

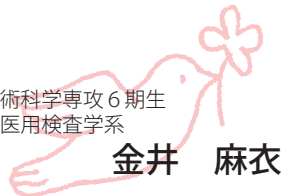
しかし、今となってみれば、教育者としてではありませんが、産科医療の現場に関わることのできる日々は、助産師としての血が騒ぐ楽しい時を過ごさせてもらっていると感じる毎日です。臨床から見ていた教育と教育現場からみる臨床の違いも面白く、また、一年で育っていく学生の成長にも目を見はるものがあります。今も学生や産婦さんから学ばせてもらっております。職業人生の最後に助産にかかわることができ本当に幸せを感じ、充実した毎日を過ごしています。若い助産師さんたちは、色々な経験を積み、自分が喜びを感じる分野で活躍してほしいと思っています。

折しも本年度は助産教育60周年の年に当たります。たまたまですが、60周年の記念誌の担当をさせてもらっておりました。その中で、多くの先輩や後輩の方々がこの学び舎を巣立って行かれ、各地で活躍されていることを知りました。皆様が寄せてくださった原稿からは、学校に対する“愛”が満ち溢れていました。愛あふれる学び舎徳島大学で助産教育を受けることができ、嬉しく思う次第です。これからも徳島大学助産教育が発展し、続いていきますことをお祈りするとともに、睦月会の発展も祈念しております。



過去とこれから

徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻6期生
徳島大学大学院医歯薬学研究部医用検査学系



金井 麻衣

私は徳島大学を卒業後、同大学の大学院修士課程へと進み、修了後は千葉県の病院に就職しました。そこでは臨床検査技師として救急の現場に携わる仕事をしました。そして今回、ご縁があって教員として母校に戻って参りました。

臨床検査技師が救急の現場に携わる仕事と言っても、ピンと来る方は少ないのではないのでしょうか。臨床検査技師の業務拡大を目的とした病院の新しい取り組みであり、このような取り組みを行っている病院は全国的にもまだそんなにありません。臨床検査技師が救急外来に常駐し、検査業務の他に医師・看護師の診療支援を行っていました。救急の現場というのはドラマ「コードブルー」のようなところ。1分1秒も無駄にできない状況で診断と治療を同時進行で行います。慌ただしい現場にはチームがあり、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師とたくさんのスタッフが関わる中で、それぞれの専門性を活かし役割を分担していました。繁多だからこそ、人手を増やし、

一人の作業を簡単かつ単純にしなければどこかでミスが起こってしまうからです。そして、そんなチームの一員として臨床検査技師に求められるものは他でもない検査の技術と知識でした。

最近ではいかに臨床検査技師の業務拡大をしていくかが問題となっています。業務拡大の一つとして臨床の場に出向こうとする取り組みがされる中、私が実際に他職種の方々と仕事をして気づいたのは、意外と他職種のことは知らないということです。臨床検査技師の存在は知っていても、具体的な仕事を正確に知っている人はほとんどいませんし、その逆も然りです。新たに臨床の場に出向き仕事を始める時、何よりの近道は他職種との相互理解だと感じました。今後、このような取り組みが全国的に広まり、臨床検査技師の活躍の場がさらに広がることを望んでいます。

教員という立場になって、初めて気付くこと、学生から学ぶことがたくさんあります。また同時に自分の学生時代を振り返り、過去の自分を反省しつつ、将来の臨床検査技師を担う学生たちに期待を募らせる日々を過ごしています。



同窓生通信

研究室紹介

保健学科の教員は「大学院ヘルスバイオサイエンス研究部」に所属しておりましたが、平成27年4月に、名称が「大学院医歯薬学研究部」に変更されました。

大学院医歯薬学研究部は、医科学部門（5系41分野）、口腔科学部門（3系26分野）、薬科学部門（4系20分野）、栄養科学部門（1系8分野）、保健科学部門（3系24分野）、産官学連携部門（2系7分野）で組織されています。

睦眉会会報では、今回の17号より、保健科学部門各分野の研究室や研究についてご紹介することになりました。今後シリーズ化して掲載させていただきます予定です。



徳島大学大学院 医歯薬学研究部 保健科学部門 組織

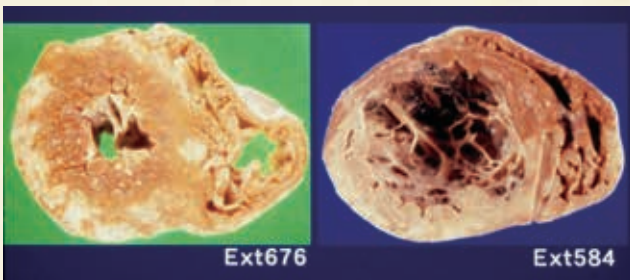
部門	系	分野名
保健科学部門	看護学	看護技術学
		看護教育学
		看護管理学
		療養回復ケア看護学
		ストレス緩和ケア看護学
		臨床腫瘍医療学
		子どもの保健・看護学
		生殖・更年期医療学
		女性の健康支援看護学
		メンタルヘルス支援学
		地域看護学
		学校保健学
		助産学
	放射線科学	放射線理工学
		医用理工学
医用画像情報科学		
医用画像機器工学		
医用画像解析学		
医用検査学	画像医学・核医学	
	放射線治療学	
	生体機能解析学	
	微生物・遺伝子解析学	
	病理解析学	
		細胞・免疫解析学

徳島発の剖検例を用いた筋ジストロフィー研究

徳島大学大学院医歯薬学研究部 医用検査学系 病理解析学分野 教授 **香川 典子**

筋ジストロフィーは、骨格筋の壊死、再生と結合組織の増生を主病変として、進行性の筋力低下と筋萎縮をきたす遺伝性疾患の総称です。本症は原因が明らかになるまで、おもに遺伝様式、臨床病態によって分類されてきましたが、分子生物学の進歩により、責任遺伝子が次第に明らかになってきて、その遺伝子にコードされるものは、ほとんどが細胞膜の周辺に存在する分子であることがわかってきました。現在、40以上の筋ジストロフィー病型が明らかになっています。

故 三好和夫先生は徳島大学医学部附属臨床検査技師学校校長をされていたので、睦眉会の皆様にはご存知の方も多いと思



デュシャンヌ型筋ジストロフィー剖検例の心臓肉眼写真
心筋層に白色の瘢痕病変が散在しており、症例によって重量も著しく異なる。

います。筋ジストロフィーが原因不明の遺伝性疾患で、電子顕微鏡による骨格筋の観察から細胞膜に変化を認め、膜に何らかの原因があるのではないかと考えられていた時代、すなわち分子遺伝学の夜明け前に、三好先生は筋ジストロフィーの新たな病型を2つ発見され、「三好型」とも呼ばれていました。これら2つの病型はその後、それぞれ欠損する膜蛋白や責任遺伝子が2人の日本人の手によって明らかにされ、分子遺伝学が三好先生の発見された病型は確かに新しい病型であることを証明しました。

三好先生のご尽力で、全国に先駆けて国立療養所徳島病院（現在の国立病院機構徳島病院）に筋ジストロフィー病棟が設置され、筋ジストロフィー研究が盛んに行われるようになりました。私は、徳島県で筋ジストロフィー剖検例が多いことに注目して、筋ジストロフィー剖検例における全身諸臓器の病理学的変化について検討しています。

筋ジストロフィーは名前のごとく、骨格筋に著しい変化がありますが、筋強直性ジストロフィーのように内分泌異常、糖尿病、免疫異常など多系統疾患として知られているものもあります。筋強直性ジストロフィー以外の筋ジストロフィーでも、剖検により全身臓器を調べると、骨格筋のみならず諸臓器に病因と直接的、間接的に関連する病変が見られます。徳島発の筋ジストロフィー病型があることを誇りに、徳島発の研究を進めたいと思っています。

地域看護学分野のご紹介

徳島大学大学院医歯薬学研究部 看護学系 地域看護学分野 教授

岩本 里織

本分野では、公衆衛生看護、在宅看護に関する研究、保健師や在宅看護の教育などを行っています。今回は、保健師教育についてご紹介したいと思います。

看護系の大学では、かつては全員が保健師と看護師の国家試験受験資格を取得していましたが、保健師助産師看護師法の改正により、現在は多くの大学が、保健師については選択制となっています。今年度の4年生は、50人が保健師の国家試験受験資格を得るため多くの講義や実習を履修しました。市町村や保健所の実習では、短大・専門学校時代からの卒業生である保健師の先輩の皆様からの暖かいご指導を受け、保健活動について学んでいます。

今年度の入学生からは保健師の国家試験受験資格は25人程度の選抜制としています。人数制限をすることにより、将来的に保健師を志している学生たちに、より質の高い教育を実施し、卒業時の基礎的能力を向上させることを目的としています。全国的には、保健師は大学院で養成しているところが少しずつ増えてきています。私の希望としては、将来的には本学の保健師課程も大学院化し、さらに基礎的能力の向上を目指し、より地域の人々に貢献できる人材の育成を目指したいと思っています。

例年、卒業後すぐに保健師として就職をする者は10人前後で

す。徳島県内の市町村や県保健所等への就職が多いですが、学生の地元である中四国地方や関西圏に就職する者もおります。徳島県は、糖尿病死亡率やCOPD(慢性閉塞性肺疾患)死亡率など生活習慣に関わる疾患の罹患や死亡が多いですので、本学の卒業生が保健師として、徳島県の人々の健康課題の解決や健康の維持向上に貢献する人材となっていることを嬉しく思います。今後も、教育・研究への皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



地域看護学分野の研究室教員
(左から松下、岩本、岡久、多田)

退職された先生からのメッセージ



退職後の日々

私の退職後の日々は他の人とは異なり、病気との戦いとなった。足の筋肉も弱り、このままでは歩けなくなってしまうと言う思いで深部脳刺激 (DBS) の治療を受ける事にした。若いころは漠然と「退職後は毎日、

日曜日で釣りにも行けるし、好きな時に旅行にも行ける」と思っていた。まさか自分が特定疾患に該当するような珍しい神経疾患に罹患し、寝たきりに近い状況に陥るとは思っていなかった (現在、要介護4である)。

振り返れば、保健学科の前身である徳島大学医学部附属臨床検査技師学校へ赴任したのは今から30余年前である。当時は、私の教える臨床生理学の検査機器は実習室にほとんどなく、古い病院の検査機器を頂いて学内実習に用いていた。超音波検査は、霧の中でコンタクトレンズを探すような状況で、神経伝導速度の刺激装置は真空管式であった。これでは、い

元徳島大学大学院医歯薬学研究部 医用検査学系 教授

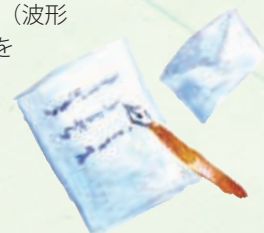
徳島大学名誉教授

齋藤 憲

けないと思い、苦勞して文部省の2度の教育設備改善経費を頂いて、やっと普通の官~公立病院並みの検査実習ができるようになったと思ったら定年がやって来た。

学生は今も昔も専門的知識や技術を持った人が適切に指導すれば無限に成長する可能性を持っていると思っている。博士課程まで開設された保健学科であるからこそ、学生にはできるだけ専門領域の人たちの講義や実習を受けさせたいと思うのは当然であるが、マンパワーが不足している。

このような思いから退職に際し、医療系の学生用に自分の専門領域の心電図の本 (波形で覚える心電図、医学出版社) を書き、図書館 (蔵本分館) にも寄贈した。最新の心電図領域の知識を凝集し、わかりやすく解説したので一度、ご覧頂きたい。



活躍する卒業生



徳島大学ホームページ、同窓会連合会の「ニュースレター」のコーナーに掲載されています。



徳島大学医学部附属臨床検査技師学校 昭和61年卒業
川崎医療福祉大学医療技術学部臨床検査学科 教授

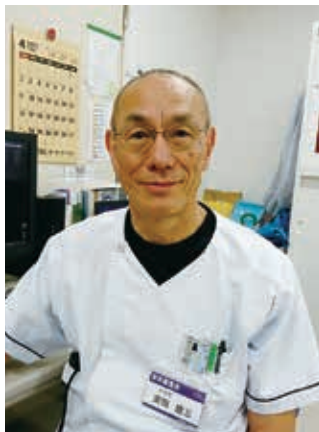
清蔭 恵美
きよかげ えみ

略歴

- 昭和62年 徳島大学医学部病理学第一講座 技術補佐員
- 昭和63年 財団法人徳島県総合健診センター 勤務
- 平成10年 徳島大学工学部生物工学科卒業
- 平成13年 徳島大学工学部生物工学科博士前期課程修了 修士(工学)
- 平成17年 徳島大学大学院医学研究科博士課程生理系専攻修了 博士(医学)
- 平成17年 アメリカ メリーランド州立大学医学部解剖学講座 博士研究員
- 平成20年 川崎医科大学解剖学 助教
- 平成22年 川崎医科大学解剖学 講師
- 平成29年 川崎医療福祉大学医療技術学部臨床検査学科 教授(現職)

昭和61年に徳島大学医学部附属臨床検査技師学校(12期生)を卒業された後、臨床検査技師として徳島大学旧病理学第一講座では病理組織検査、徳島県総合健診センターでは病理組織検査の他に、主に肺がん健診、子宮がん健診に従事されてきました。多忙を極める健診業務の中、急速に進歩する分子細胞生物学をもう一度学び直したいという強い思いが生まれ、平成6年徳島大学工学部生物工学科社会人コースに入学されました。仕事と学業の両立を果たし、さらに急速に発展した分子細胞生物学の専門的な知識を得たいという希望から、同学博士前期課程へ入学されました。学修を進める中で、医療現場とは異なる研究に魅力を感じ、形態学を中心とした現代医学をより深く学びたいとの思いから、平成13年徳島大学大学院医学研究科博士課程へと進み神経解剖学領域での研究をスタートされました。研究テーマとしては、大学院生時代から3年間の米国留学を経て川崎医科大学解剖学教室在任中まで一貫して嗅覚神経回路の形態学的解析を行ってこられました。その成果は多くの論文と国際学会にて発表されていますが、特に、匂い識別に関わる嗅球ドーパミン系ニューロンについて、その3次元立体構造を解明した2010年の論文、デジタル電子顕微鏡を用いた3次元シナプス解析についての2017年の論文は高く評価され、いずれも国際学術専門雑誌の表紙に選ばれています。研究のみならず、助教、講師として医学生への解剖学講義、人体解剖実習、組織学実習を行い、併せて学年副担当教員として学生指導に熱心に従事していました。

平成29年4月からは、同年度新設された川崎医療福祉大学臨床検査学科の初代教授に選任され、これまでの臨床実務、研究、教育実績を活かし、高い専門知識と知恵を創り出せる臨床検査技師育成のため教育と研究に邁進されています。



徳島大学医学部附属診療エックス線技師学校 昭和43年卒業
社会医療法人川島病院 放射線室長

安田 健三
やすだ けんぞう

略歴

- 昭和43年 香川県済生会病院放射線科 勤務
- 昭和45年 (株)井関商会医療部放射線器材課 主任
- 昭和53年 医療法人倚山会田岡病院 放射線技師長
- 平成23年 社会医療法人川島病院 放射線室長 就任(現職)

昭和43年に徳島大学医学部附属診療エックス線技師学校(7期生)を卒業後、香川県済生会病院において結核病診療、そして瀬戸内海の島々へ巡回診療船(済生丸)での健診業務を経験されました。これらは若き日の貴重な思い出であったとのこと。その後帰郷され、昭和45年に民間会社の(株)井関商会にて放射線医療器材販売、設置、管理業務に携わっておられます。徳島県下の病院・診療所を定期訪問されたこの経験は、後年の医療業務において、患者との信頼関係や新しいモダリティの取りくみ方に大きく影響をもたらしたと回想されています。香川医大における医用画像学の履修生期間に加え、昭和53年からの35年に及ぶ田岡病院での救急医療活動は、画像診断の進歩と地域社会への貢献と共に歩んできたといっても過言ではありません。田岡病院を定年退職後は、平成23年から川島病院にて透析医療に伴う循環器疾患や糖尿病そして腎移植に関わる最新の医用画像の提供に心血を注いでおられます。

平成26年の春には、これまでの功績に対して瑞宝双光章を授与されました。現在もたゆまない技術の向上を念頭に、後輩の教育と指導に活躍されています。



平成29年度 徳島大学睦眉会総会報告

平成29年7月10日 (月) 18:30～ 徳島大学医学部第二会議室

※参加者23名(役員会で総会に代える)

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - (1)平成28年度事業報告
 - (2)役員会報告
 - (3)平成28年度会計報告
 - (4)会計監査報告
4. 議案審議
 - (1)平成29年度予算案、事業計画案について
5. その他
6. 閉会



平成28年度 事業報告

1. 睦眉会主催 新入生歓迎昼食会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成28年4月6日
2. 徳島大学同窓会連合会 ニュースレター(活躍する卒業生)掲載・・・・平成28年4月、9月
3. 総会・講演会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成28年7月3日
 ホテルクレメント徳島
 第11回睦眉会主催講演会
 演題 「阿波の人形浄瑠璃」
 講師 瀧山 雄一 先生 (徳島市立徳島城博物館長)
 参加者 31名 (内 会員 30名)
4. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席(会長 他5名)・・・・平成28年10月20日
5. 徳島大学同窓会連合会交流会「関東びざん会(東京)」への出席(会長)・・・・平成28年12月4日
6. 睦眉会会報(第16号)の発行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成28年12月16日
7. 卒業式・医学部各賞授与式・謝恩会出席(会長他)・・・・・・・・・・・・平成29年3月23日
8. 卒業・修了記念品の贈呈・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成29年3月23日

役員会報告

1. 役員会開催状況 (平成28年4月～29年7月)

年度	回数	開催日	場所	参加人数
H. 28	1回	平成28年6月17日 (金)	医学部第二会議室	26名
		総会開催 平成28年7月3日 (日)	ホテルクレメント徳島	30名 (会員)
	2回	平成28年8月22日 (月)	医学部第二会議室	18名
	3回	平成28年11月29日 (火)	医学部第二会議室	23名
	4回	平成29年2月20日 (月)	医学部第二会議室	20名
H. 29	1回	平成29年4月24日 (月)	医学部第二会議室	26名
	2回	総会開催(役員会) 平成29年7月10日 (月)	医学部第二会議室	23名

2. 各種委員会開催状況

委員会名	開催日	場所	参加人数
会報委員会	平成28年9月1日 (木)	医学部第二会議室	12名
	平成28年10月3日 (月)	医学部第二会議室	11名
	平成28年10月31日 (月)	医学部第二会議室	12名
	平成28年11月14日 (月)	睦眉会事務室	4名
学術・名簿委員会	平成28年5月16日 (月)	医学部第二会議室	5名
ホームページ委員会	随時		4名

3. 役員会・委員会における主な協議事項

- 1) 睦眉会総会・講演会について
- 2) 睦眉会役員改選について
- 3) 睦眉会会報の発行について
- 4) 睦眉会の役員・委員会の活動について
- 5) 徳島大学同窓会連合会への協力について
- 6) 全学同窓会体制の構築について
- 7) ホームページの運用について
- 8) 新入生歓迎昼食会開催について
- 9) 卒業・修了記念品について

平成28年度 睦眉会会計報告 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

【収入の部】

項 目	金 額
本部会費 (142名分)	2,840,000
貯金利息	217
繰越金	4,515,702
収入合計	7,355,919

【支出の部】

項 目	金 額
総会・講演会費用	260,883
印刷費・送料 (会報代を含む)	1,456,381
会議費	403,518
慶弔費 (入学卒業記念品、退職教員記念品代を含む)	696,428
雑費	30,479
会報委員会活動費用	61,581
事務局運営費	200,000
予備費	4,246,649
支出合計	7,355,919

【収支決算の部】

総収入額	総支出額	次年度繰越額
7,355,919	3,109,270	4,246,649

平成29年3月31日 会計 竹林 桂子

会計監査報告

平成28年度の会計報告書を監査いたしました。

会計処理は適正に、正確に処理されていることを証明いたします。

平成29年 7月10日

監事 中道 玲子

吉田知位子

* 以上の報告事項は、すべて承認されました。

平成29年度 睦眉会予算 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【収入の部】

項 目	金 額
本部会費 (144名分)	2,880,000
貯金利息	200
前年度繰越金	4,246,649
収入合計	7,126,849

【支出の部】

項 目	金 額
総会費用	30,000
印刷費・送料 (会報代を含む)	1,200,000
会議費	400,000
慶弔費 (入学卒業記念品、退職教員記念品代を含む)	700,000
雑費	100,000
会報委員会活動費用	70,000
事務局運営費	200,000
予備費	4,426,849
支出合計	7,126,849

* 予算案は、提案通り可決されました。

平成29年度 事業計画

1. 新入生歓迎昼食会の開催 平成29年4月6日
2. 徳島大学同窓会連合会 ニュースレター (活躍する卒業生)掲載 平成29年4月、9月
3. 総会(役員会で代える)の開催 平成29年7月10日
4. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席(会長 他) 平成29年10月12日
5. 徳島大学同窓会連合会交流会「近畿びざん会」への出席(会長 他) 平成29年11月12日
6. 睦眉会会報の発行 平成29年12月頃
7. 卒業式・医学部各賞授与式出席(会長他) 平成30年3月23日
8. 卒業・修了記念品の贈呈 平成30年3月23日

* 事業計画案は、提案通り可決されました。



平成29年度 徳島大学睦眉会役員

(2017年4月1日～)

役 職		氏 名	所 属	勤 務 先	
名誉会長		雄 西 智恵美	学科長	徳島大学医学部保健学科長（徳島大学大学院医歯薬学研究部）	
会 長		河 田 明 男	放	三船病院	
副会長		岩 佐 京 子	看	徳島大学病院	
		川 田 直 伸	放	徳島大学病院	
		江 原 隆	検	徳島市民病院	
		森 内 洋 美	助	徳島大学病院	
理 事	事務局	梅 野 真由美	検		
		富 永 辰 也	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部	
	会 計	竹 林 桂 子	助	徳島大学大学院医歯薬学研究部	
	総 務	桑 村 由 美	看	徳島大学大学院医歯薬学研究部	
		富 永 正 英	放	徳島大学大学院医歯薬学研究部	
		安 藝 健 作	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部	
		葉 久 真 理	助	徳島大学大学院医歯薬学研究部	
理 事	看	佐 藤 ゆかり		徳島大学病院	
		長 谷 奈生己		徳島大学病院	
		米 田 好 美		徳島市民病院	
		岩 野 朝 香		徳島大学病院	
		飯 藤 大 和		徳島大学大学院医歯薬学研究部	
		千 葉 進 一		徳島大学大学院医歯薬学研究部	
		富 澤 栄 子		四国大学看護学部	
	放	天 野 雅 史		徳島大学病院	
		山 田 健 二		徳島大学病院	
		山 岡 哲 也		徳島県立中央病院	
		検	佐 藤 雅 美		徳島大学病院
			岡 本 充 栄		徳島大学病院
			嶋 田 啓 司		徳島県立保健製薬環境センター
			上 田 美 香	助	徳島大学病院
監 事	中 道 玲 子	助			
	吉 田 知位子	検	徳島県立中央病院		

編集後記



皆様、睦眉会報17号いかがでしたか。

私事になりますが、来春に定年退職します。徳島大学医学部附属看護学校に入学し、卒業後徳島大学病院で働き、40年が過ぎます。この間、蔵本キャンパス内に通い、各学部棟や施設の改築、病院も新築され、時代に伴い変化を見ることができました。自分でもよくここまで、働いたなと感心しています。どんなモチベーションがあったのかなと少し不思議です。ただ言えることは、専門職として、いろいろ知識を増やすことができ、またそれを活かし興味が湧いたことで継続できたのかなと思います。それと、徳島大学附属看護学校卒業の同級生がいたことも大きいですね。

今後は後輩にバトンタッチして、来年からは睦眉会会員の一人として、見守っていきたいと思います。

睦眉会理事 岩佐 京子



徳島大学病院に在職中の看護28期生

徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報ならびに本学HPをご覧ください。
また、徳島大学同窓会連合会のFacebook (<https://www.facebook.com/bizankai/>) を開設しました。
徳島大学の情報をよりリアルタイムでお届けします。ぜひ、「いいね!」よろしくお願いします。

<徳島大学総務部総務課>

Tel : 088-656-9979 Fax : 088-656-7012 URL : <http://www.tokushima-u.ac.jp/>

Face book



1 徳島大学はクラウドファンディングに挑戦

徳島大学は、研究者の研究費獲得手段の一つとして、クラウドファンディングに挑戦しています。

クラウドファンディングは、インターネット等を利用して研究テーマを社会にわかりやすく説明し、広く研究資金を募ることを目的としています。

平成28年11月1日には、世界の人々に役立つ研究や事業などを支援するための仕組みとして、一般社団法人大学支援機構の運営による「Otsucle (おつくる) <https://otsucle.jp/>」というサイトでプロジェクトの資金募集を開始し、これまでに複数のプロジェクトが目標額を達成しました。

2 仁生イノベーショングラントの創設

元徳島大学薬学部教授であった 故 藤多哲朗元京都大学教授の寄附金により、平成28年度、学生が創出した新規アイデアの実現化、社会への還元を目的とした助成金「仁生(じんせい)イノベーショングラント」が創設されました。

第2回となる平成29年度は、学生グループ6件の応募の内「より正確で簡便な口腔内の清潔度評価法の開発：細菌数とATP量の関連から」をはじめ5課題が採択され、平成29年6月9日に交付式を開催しました。3月には成果報告会を予定しています。

3 日本学士院第66回公開講演会を開催

平成29年5月20日、徳島大学長井記念ホールで日本学士院第66回公開講演会を開催しました。

大村智先生の司会のもと、本庶佑先生から「免疫力でがんを治す」、岩井克人先生の司会のもと、野中郁次郎先生から「知識創造によるソーシャル・イノベーションの実践」についてご講演いただきました。

日本学士院会員の先生方による、普段は触れる機会が少ないお話に、県内外から参加した約250人の参加者は、熱心に耳を傾けました。

4 平成29年度入学式を挙行了しました

4月6日アスティとくしまで平成29年度入学式を挙行し、合計1,973名の入学が許可されました。

入学生を代表し、理工学部の片岡大治さんから、「本学の教育方針に従って学則をまもり、学術の研究と人格の陶冶に努めることを誓います」と宣誓があり、野地学長が「成功の秘訣は、大きなVisionを持ち、粘り強くやり抜くことです。皆さんが有意義な大学生活をおくれるよう支援していきます。」とのお祝いの言葉を贈りました。その後、在学生を代表して医学部の大西将統さんから「自ら行動を起こし、失敗を恐れず何事にも意欲的に取り組んでいってください。」との歓迎の言葉がありました。

徳島大学基金へのご協力をお願い

「徳島大学基金」は、皆さまから事業区分ごとにご支援いただいた寄附金を基金として積み立て、徳島大学の教育研究等の発展のために使用させていただくものです。平成28年にリニューアルし、webサイトからクレジットカードやコンビニを利用したお申し込みも可能となりました。

徳島大学創立70周年記念事業基金

平成31年度に迎える、徳島大学創立70周年記念事業へのご支援

教育・研究・社会貢献事業基金

プロジェクト事業や全学的な教育・研究、管理運営、環境整備などへのご支援

国際交流・グローバル化事業基金

留学、教員の海外派遣など、国際交流事業へのご支援

修学支援事業基金

授業料等の免除など、学生の修学へのご支援

学部等支援基金

各学部、先端酵素学研究所の教育・研究や管理運営、環境整備へのご支援

古本募金 <https://www.furuhon-bokin.jp/tokushima-u/>

不要になった本、CD、DVDを寄贈いただき、買取金額を基金に充てます

詳しくは徳島大学基金
ホームページ
(<http://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/>)
をご覧ください。



- 基金に関するお問合せ
徳島大学基金事務局
(担当：総務部総務課)
電話 088-656-9981
- 申込手続き、税制上の優遇措置に関するお問合せ
徳島大学財務部資産管理課
電話 088-656-7037